

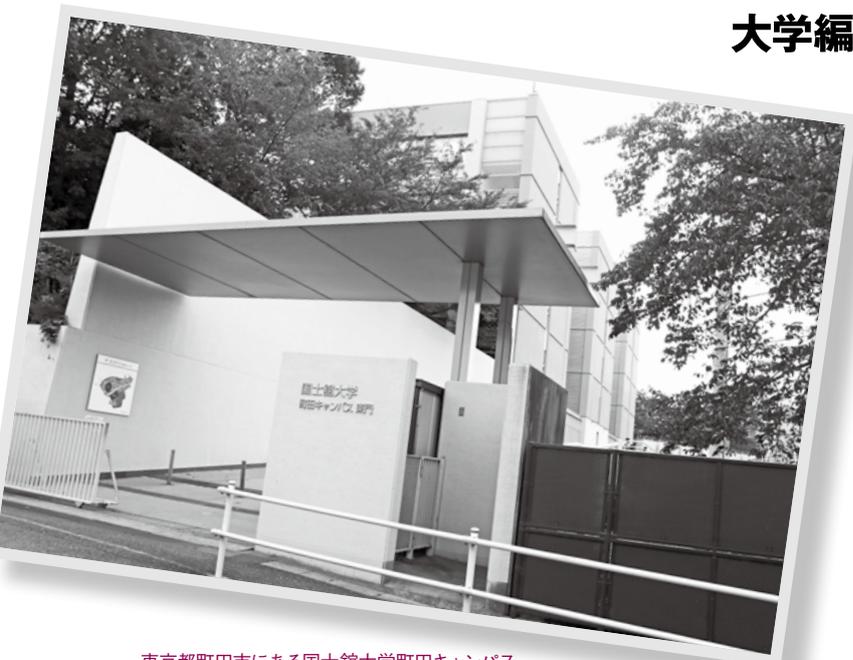
最新事情

スポーツと学業を両立したい。
限られた時間で結果を出すアスリートの挑戦

国士舘大学 21世紀アジア学部

(東京都町田市)

国士舘大学21世紀アジア学部は、グローバルに活躍できる人材の育成に重きを置く学部だ。社会人基礎力の教育も重視しており、選択科目「特別課題研究」において、資格講座や就職活動の事前準備講座などを開講する。その中の「ビジネス系検定講座」では、秘書検定とサービスマスター検定に多くの学生が挑戦している。今回は部活を行いながら、スポーツと学業の両立に挑む学生たちの話を中心に紹介する。



東京都町田市にある国士舘大学町田キャンパス。野球場やサッカー場などのグラウンドが整備されており、スポーツに打ち込める環境が整っている

アスリートたちも ビジネス系検定に挑戦

平成29年に創立100周年を迎えた国士舘大学は七つの学部を擁し、多様な学びを提供する総合大学だ。同大はスポーツ大学としても名をはせており、卒業生はもろろん在校生も、オリンピックや世界大会に出場し、実績を残している。そうしたアスリートは体育学部に限らず、他の学部にも所属する。

平成14年4月、町田キャンパスに開設された21世紀アジア学部にも、多くの運動選手が在籍しており、2年前に開催されたリオデジャネイロオリンピックにも在校生が出場し、入賞した選手もいる。

同学部では、世界を舞台に活躍する人材を輩出するため、語学研修や留学制度、資格取得の支援などを充実させ、国際人の育成に力を入れている。「文化・歴史への理解」「時代に合った実践的な専門性の育成」「コミュニケーション能力の育成」の柱を掲げ、学生個々の学びのニーズに対応した教育を展開する。

国内外で活躍する人材を育てるためには、社会人基礎力の教育も欠かせないと考え、選択科目「特別課題研究」では資格や検定、就職活動の事前準備ができる講座を開講している。その一つである「ビジネス系検定講座」では、秘書検定とサービスマスター検定の合格を目指す。指導を担当する安重千代子先生にお話を伺った。

「前期はサービスマスター検定2級と準1級の合格を、後期は秘書検定2級の合格を目指します。両検定を学習する狙いは、社会人に求められる言葉遣いや立ち居振る舞い、ビジネスマナーを習得することです。社会人基礎力を身に付けるために最適な検定だと思います」と検定を評価し、受講生の特徴をこう話す。

「講座を履修する学生の中には、運動選手が多いです。本校の運動部に所属する学生の大半は、全国大会や世界大会を目指しています。試合に出場するためには、まずはレギュラーや代表の座を勝ち取らなければならないため、練習は欠かせません。だからと言って、学業をおろそかにできない。部活と学業をしっかりと両立したい。どの学生もそう思っています。厳しい

(左から)4年生の西島寿哉さんと、2年生の矢野圭人さんはサービス接遇検定準1級に合格。「本試験では笑顔を絶やさずに挑みました」と2人は思い返す



検定の指導を担当する安重千代子先生。「学生が合格できるよう、できる限りのことをしてあげたい」と熱意を語る



選択科目「ビジネス系検定講座」では前期にサービス接遇検定2級と準1級を、後期では秘書検定2級の合格を目指し指導している



一秒も無駄にしたくないから 授業に集中する

多くの運動選手がビジネス系検定に挑戦しているとき、第一線で活躍する学生にインタビューをした。

状況での挑戦ですが、秘書検定とサービス接遇検定に挑戦する学生たちの能力を最大に引き出したい。その思いで、指導に当たっています。

アメリカンフットボール部に所属する4年生の西島寿哉さんと2年生の矢野圭人さんは、今年6月にサービス接遇検定準1級に合格。学習を次のように振り返る。

「これまでの学生生活では学べなかった知識を習得することができました。特に印象的だったのがお辞儀の種類と仕方です。種類によって角度が異なることや、首から曲げずに上体を腰から折るのがポイントであることが学べました」と西島さん。185センチの恵まれた体格を生かし、チームで重要なポジションを担い、現在は副将としてチームを引っ張っている。

矢野さんは「部活では、監督や先輩から礼儀は教わりませんが、ビジネスマナーを具体的に教わる機会はありません。社会で求められる言葉遣いや立ち居振る舞いが学べてよかったです」と笑顔を見せる。

シーズンの真っ只中に、サービス接遇検定の試験があったそうだ。

「4〜6月は定期戦やオープン戦など、毎週のように試合があります。授業終了後、17〜20時まで練習を行い、その後ミーティング。帰宅するのは夜中になることが多いです。帰宅後に学習する時間は取れませんでした」(矢野さん)。

「そのため講座では、安重先生のオリジナルテキストをしっかり頭にたたき込み、過去問題をより多く解きました。授業に集中することが合格への近道だったと思います」(西島さん)。

インタビューを実施したのは8月末。「秋

リーグに向けて、練習が忙しくなるが、後期は秘書検定に挑戦したい」と二人は意気込む。

4年生の西島さんに卒業後を聞いた。

「ホテルで働くことが決まっています。ホテルマンになるのが夢でした。サービス接遇検定に挑戦したのもそのためです。検定で身に付けたスキルや立ち居振る舞いを職場で発揮したいです」と抱負を語る笑顔は期待に満ちていました。

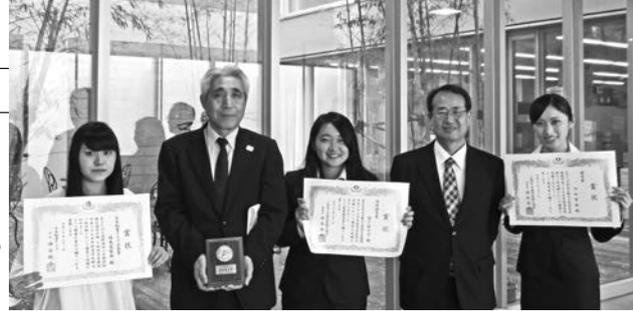
ラグビー部4年生の松本光太郎さんも、卒業後は一般企業で営業マンとして社会人スタートを切る予定だ。

「2年生のときに、秘書検定2級とサービス接遇検定2級・準1級に合格しました。検定の学習は楽しかったです。なかなか触れることなかったマナーは新鮮で、新しい知識を習得できた喜びを感じました。言葉遣いや入室の際のマナー、上座や下座など、就職活動で役立つ知識ばかり。面接でも困りませんでした」。

検定の学習時間を確保するには苦労したうえで、「寮生活を送っているため、食事も洗濯も全て自分で行います。洗濯機が稼働している間にテキストを読み込んだり、過去問題を解いたりしました」と松本さんは振り返る。

同じラグビー部の佐藤星弓さんと萱嶋悠太さんは3年生。今年、サービス接遇検定に挑戦し、佐藤さんは2級に、萱嶋さんは準1級に合格した。

「マナーや接遇は普段、学ぶ機会がなく、言葉遣いに慣れるまで大変でした。そこで力を入れ



横沢民男学部長（左から2人目）と表きよし教務主任（左から4人目）に、平成29年度の検定試験成績優秀者として表彰されたことを報告する学生たち

たのが過去問題を解くこと。部活が終了した後、萱嶋とファミリーレストランに行き、一緒に問題を解いては『正解はどれ?』『どこが不適当?』などと話しながら、学習しました」と佐藤さん。萱嶋さんはうなずきながら、「一緒に学習する仲間の存在は大きかったですね」と話し、こう続ける。

「私は話すのが得意だったので、面接試験には自信がありました。安重先生から本番と同じ形式で指導していただいたので、本番では緊張しませんでした」。

来年开始まる就職活動にもやる気を見せる。

「トレーナーを目指しています。サービス接遇検定で身に付けた対人スキルを生かして、活躍したいです」（萱嶋さん）。

「面接が苦手です。いろいろな場面できちんとした立ち居振る舞いが必要になってくるので、テキストを読み返して頑張ります」（佐藤さん）。

指導者の工夫が 挑戦する学生を支える

4年生の池田望陸さんは、女子新体操部に所属する。池田さんは昨年、秘書検定2級とサービス接遇検定2級・準1級に合格。平成29年度秘書検定優秀賞（個人）を受賞した。

「言葉遣いが難しかったです。正しい使い方をマスターしなければ合格はできません。過去問題を約20回分解き、習得しました。卒業後は医

療機関に就職する予定です。検定の学習で身に付けたビジネスマナーや言葉遣い、お客さま対応、サービスタップとしての心構えを生かし、どのような方にも安心していただける対応を目指します」。

過去問題は、学生にとって知識を定着させるために欠かせないツールとなっているようだ。「授業では、過去に出題された問題を領域ごとにまとめたオリジナルの問題集を使っています。問題を解くことで、内容の理解が深まり、知識が定着するのです。オリジナルのテキストは毎年のように改訂し、受講生のカラーに合わせています」（安重先生）。

安重先生の工夫が詰まったテキストや問題集は、学生から高い評価を得ている。

「反復練習するのに最適。限られた時間で、効率的な学習ができたと思います」と話すのは、秘書検定2級とサービス接遇検定2級・準1級に合格した準硬式野球部の野村佳希さん。チームメイトの中村主輝さんはサービス接遇検定2級に合格。「テキストを読み、問題を解くだけで相当力が付いたと感じています」と話す。

現在、二人は2年生。「社会人の基本を習得したことは、就職活動において大きなPRポイントになると思う」と自信を見せる。

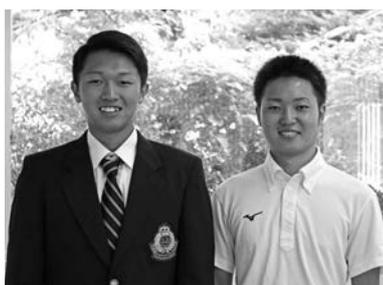
スポーツと学業を両立する学生たち。指導者の熱意や工夫が、大きな支えとなっている。「運動部に所属している学生

は、結果が全てとされる厳しい世界にいます。結果を出すためには練習するしかありません。努力はうそをつかれないと知っているから、学生は辛くても手を抜かず、一生懸命に取り組めます。それは勉強も同じなのです。学習した分だけ自分の力になる。成長の糧になると信じているのです。その強い思いで挑戦する学生たちに、検定に合格できるよう、できる限りのことをしたい。こうした学生たちを指導できるのは、私の誇りでもあります。これからも精一杯、指導していく決意です」（安重先生）。

4年生の池田望陸さん。小1から新体操を続け全国大会多数出場、全国選抜選手に選出された経験もある。卒業後は医療機関に就職することが決まっている



（左から）4年生の松本光太郎さん、3年生の佐藤星弓さんと萱嶋悠太さん。「検定の勉強は楽しかったです」と笑顔を見せる3人



（左から）野村佳希さんと中村主輝さん。2人とも2年生。「就職活動はまだ先ですが、マナーや面接時の対応が学べたので、同学年の学生より余裕を持って取り組みそうです」と話す